

Webアプリケーションスキャン診断サービスの開始について

1. 株式会社ジャパンエナジー(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:高萩光紀)のコンピュータシステム関連子会社であるセントラル・コンピュータ・サービス株式会社(本社:東京都江東区亀戸六丁目、社長:山田修身、以下「CCS」)は、ソフトウェアセキュリティ対策の一つとして、Webアプリケーションの脆弱性を診断する「スキャン診断サービス」を、本年8月から本格的に開始いたしました。
2. 昨今、インターネットをはじめ組織内ネットワーク等の急速な発展に伴い、情報資産は様々な脅威にさらされることとなり、情報セキュリティ対策の必要性が高まっております。こうした中、CCSでは、これまで情報セキュリティサービスとして、ネットワーク環境のセキュリティ診断やソフトウェアのソースコード診断等を行ってまいりましたが、今回、専門的なソフトウェア脆弱性診断ツールを用いることにより、Webアプリケーション全般を対象としてスキャン診断サービスを提供することが可能となりました。
3. 本サービスの特長は、最新のソフトウェア脆弱性診断内容(バッファオーバーフロー、クロスサイトスクリプティング、ヒデウンフィールド操作等)を取り込むことにより、網羅的にスキャン診断することが可能で、また、そのデータをセキュリティ専門家が点検・評価することにあります。
4. 本サービスは、主に次のような顧客ニーズに対応いたします。
 1. 運用中のWebアプリケーションの脆弱性を客観的に評価したい。
 2. 開発したWebアプリケーションの出荷・受入検査において、セキュリティ脆弱性を客観的に評価したい。
 3. Webアプリケーションの重要な開発段階ごとにセキュリティ脆弱性の診断を行うことにより、開発工程の手戻り(作業のやり直し)を軽減し、トータル開発期間の縮小と開発コストを削減したい。
5. なお、CCSでは、本サービスの開始により、エントリーレベルのスキャン診断から、ソースコード診断、ソフトウェアの設計・実装のコンサルテーションまで一貫したソフトウェアセキュリティ対策を提供できることとなります。